

No.34

明日への 扉

逆境を越えて得た 自らの行動力と成長

はらの その りゅう
原之園 龍 さん



7月に開催された全国大会では、得意の「上段前廻し蹴り」を決め優勝。優勝報告のため、8月29日、関係者とともに市役所を訪問した。全国大会優勝は、スペイン支部時代に出場した平成23年大会での優勝以来、2度目となった。



昭和61年鹿屋市生まれ。鹿屋工業高校卒業後、平成17年市内の建設会社に就職。平成20年錬心館総本山（日置市）に勤務後、平成21年スペイン支部を設立し、現地で指導。平成26年に帰国し、新規就農者として就農。現在、錬心館串良細山田支部・大崎支部指導員。（30歳）

空手は、小林寺流空手道錬心館の師範である父に6歳から習い始めました。兄や姉も空手をしていて、母も趣味で太極拳をするような人。空手を始めるのは自然な流れでした。

高校卒業後、市内で働き始めて丸3年を迎えようとしていた平成20年3月、空手関係者が集う祝賀会に参加したところ、錬心館宗家2代目の保蔵先生から直接、「スペイン支部を立ち上げてくれないか」と声を掛けられました。もともと空手に打ち込みた、新しいことに挑戦したいという思いがあったので、翌日にはスペイン行きの決意を伝えました。

しばらくして会社を辞め、ビザを取得するのに1年程かかることから、その間、総本山に勤務し、来客の対応や研修の手伝いをしました。その一方で、自費で鹿児島市内のスペイン語教室に通いました。

そして平成21年3月、22歳で単身スペインに渡ったのですが、まずは道場探し。3か月してようやく道場となる部屋を借りることができました。言葉もままらないうえでの指導、アルバイトをしながらの生活で、苦勞の連続でしたが、徐々に生徒数も増え、滞在最後の年には15人程が集まりました。

約5年間のスペイン支部での経験を経て帰国し、地元・串良町細山田で就農しました。現在、シヨウガ、

バレイシヨを約50aずつ栽培しています。最近、さつまいもの栽培も始め、今後はゴボウにも挑戦するなど、規模を拡大したいと思っています。

もちろん今でも空手を続けており、現在は2つの支部の指導員でもあります。今年7月に鹿児島市で開催された「第47回小林寺流錬心館全国空手道選手権大会」では、一般男子組手の重量級で優勝することができました。今後は指導者としても結果を出したいです。

組手をしている時は敵でも、試合が終われば仲良くなれる「空手」、日々作物に触れてこそ状態を知れる「農業」。空手も農業も、「拳で語り合える」のが共通の魅力です。今こうして、自分のペースで両立できることがうれしいですね。

スペインでの生活は大変でしたが、挑戦する日々は刺激的で楽しいものでした。当時の私のことを周囲はよく「ポッケモン」と言いますが、自分が行動を起こさないと何も変わらないということを知ることができましたし、言われたことをするだけだった自分が変われたと思っています。「やらないよりは、やったほうがいい」と、経験を通して実感しています。

 FMかのや (7・2MHz)
9月25日(月) 9時5分から
原之園 龍さんが出演
(予定)